

## 静岡県漁業協同組合連合会

1024 静岡市追手町 9-18  
14.12.20 ☎ 054-254-6011  
編集・発行 = 指導部漁政課

### 1. 本会の業務組織の変更に伴う人事異動を内示

本会では、平成15年1月1日をもって業務部を廃止し、購買部、販売部の2部制とする業務組織の変更を行うことに伴い、この程職員の人事異動を次のとおり内示しました。

参事兼購買部長 大村久男(参事) 総務部長兼総務課長 増田恵一(総務部長兼総務課長兼施設利用課長事務取扱) 販売部長兼焼津事業所長 山下光夫(焼津事業所長)

購買部次長兼石油課長 安藤徳一郎(購買課長) 販売部推進役(課長待遇) 鈴木 博(賀茂出張所長) 資材課長兼浜名出張所長 戸塚 求(浜名出張所長心得) 賀茂出張所長心得 西野朝善(賀茂出張所長代理) 総務課車輛担当主任 市川伸二郎(総務課兼施設利用課車輛担当主任) 総務課 松永 仁(施設利用課) 石油課石油担当主任 上嶋永昭(購買課石油担当主任) 石油課 藤沢俊也(購買課) 石油課兼資材課 中野聡子(購買課兼販売課) 資材課資材担当主任 平尾敬義(購買課資材担当主任) 資材課 村松 豊(購買課) 焼津事業所・浜名出張所駐在 高木基良(焼津事業所) 退職

12月31日付 中西浩二(焼津事業所・浜名出張所駐在) 平成15年1月1日付定年 内田勝人(業務部長兼販売課長) (カッコ内は旧役職)

### 2. 第8回県青年・女性漁業者交流大会開催 県知事賞に稲取漁協婦人部

県並びに本会主催、県信漁連後援による第8回県青年・女性漁業者交流大会が去る12月13日静岡市内のもくせい会館において、県下漁協青壮年部・婦人部員等約150名の参加のもと開催されました。

今回は、アワビ資源の復活を目指して(伊東市漁協青壮年部 中道尚吾) 子供との魚料理教室をつうじて(稲取漁協婦人部 津島幸子) 沼津市沿岸域の養殖生産を確保するために - 漁場改善計画への取組み - (沼津市内浦・静浦漁協青壮年部(養殖のあしたを考える会) 小林和成) ウナギを食卓に - ウナギ販売促進を目指して - (浜名湖養魚漁協青壮年部(青鰻会) 中村訓久) の4件の発表と「スジアオノリ養殖の先進地視察について」(浜名漁協気賀支所 白柳英明)と題した県外先進地視察報告のほか、「焼津の海と魚について」(県立焼津水産高等学校3年 前島一儀)と題した研究発表が行われました。

夫々の発表は、審査員8名(審査委員長：澤田敏雄県水産試験場長)により厳正なる審査が行われた結果、稲取漁協婦人部は「昭和35年から長年に亘る魚食普及活動や環境改善、地域ボランティア活動などを行い、従来の料理教室と趣きを変え、中学生を対象に「たべたい」と思わせる料理教室の開催、漁業地域の女性ならではの魚料理でもてなす食事サービス等」が高く評価され、最優秀賞(県知事賞)に選ばれました。

また、沼津市内浦・静浦漁協青壮年部(養殖のあしたを考える会)が「最近の食の安全性が求められている中で、安心、安全な生産物を供給しようとする取組みは時代に即しており、またマアジのブランド化の取組みは、天然マアジに対抗するため養殖マアジならではの良さを全面に出して売り込もうとするもので、今後の養殖業の振興のための活動として重要である」として、稲取漁協婦人部とともに、全国大会への出場が決定しました。

なお、全国大会は来る3月5日(水)～6日(木)東京において開催されます。

### 3. 平成15年のT A C決まる マイワシはほぼA B Cの2倍の10万トン

平成15年の漁獲可能量(T A C)は、11月開催の水産政策審議会資源管理分科会の第6回漁獲可能量部会で承認、分科会で決議され「生物学的許容漁獲量(A B C)の2倍まで」を基本として設定することになりました。

これまでのT A Cは、前年のT A Cを基本としながらもA B C増減を参考に設定されていましたが、T A CとA B Cの差が最大で10倍になるなど、資源評価とのかい離が極めて大きくなったことから見直されたものです。

対象7魚種の15年のT A Cは以下のとおりです。サンマ33万4千トン(大臣管理量24万トン) スケトウダラ31万5千トン(同17万7千トン) マアジ30万4千トン(同13万トン) マイワシ10万トン(同若干) マサバ及びゴマサバ51万2千トン(同30万3千トン) スルメイカ53万トン(同37万5千トン) ズワイガニ6,455トン(同4,482トン)。

特にマイワシについては、資源評価が著しく悪化していることを踏まえ「やむを得ず混獲される程度」として、ほぼA B Cの2倍に当たる10万トンとし、大臣管理分(大中型巻網漁業分)は「若干」と表現されました。

なお、マサバ・ゴマサバはA B Cの2倍ではT A Cが大幅に減少することから調整され前年より18万1千トン少ない51万2千トン(大臣管理量大中型巻網漁業30万3千トン)となりました。

### 4. 県T A C(漁獲可能量) 11月末漁獲実績を発表

県では、この程T A C対象5魚種の11月末現在の漁獲実績を発表しました。

それによると、マイワシがT A C数量10,000トンに対し280トンで消化率2.8%、マサバ及びゴマサバは同8,000トンに対し4,751トンで消化率59.4%、またT A C数量が若干量の魚種では、サンマ213トン、マアジ2,352トン、スルメイカ356トンとなりました。

### 5. 諸会議・日程(12月24日(火)～1月6日(月))

- 既報分省略 -

12月27日(金) 県漁連 = 仕事納め

1月 6日(月) 県漁連 = 仕事始め

本紙次号の発行は、年末・年始につき明年1月10日(金)となります。

- 訂正 - 本紙N o 1023号に掲載致しました養鰻研修会に関する記事の中で丸榛吉田うなぎ漁協組合長曾根啓弍氏を曾根啓二と掲載致しました。お詫びし訂正致します。